

今までの会計事務所の業務は下記のように流れますが、その試算表は2ヶ月遅れで作成され経営と節税にはが遅すぎて役に立ちません。

前月上旬	前月中旬	前月下旬	当月上旬	当月中旬	当月下旬	翌月上旬	翌月中旬	翌月下旬
前月1日 請求書発行 ★ 請求書★ 一番大事なデータを無視	取引の直後で1番早く作成される請求書を発生した月の入力に使用せずに、2ヶ月遅れ(前々月)の請求書の決済となる現金と預金の入金の出納帳を手書きで書いて準備します。何のため? 会計事務所のためですか? 会計ソフトに直接入力すれば試算表が直ぐに出るのに会計事務所は顧客離れを恐れてさせません。	手書きあるいはワープロで現金出納帳・預金出納帳・売掛表・買掛表・手形受払帳を御社が作成して会計事務所に渡すのは早くても当月中旬で、会計事務所に届いてパート社員が会計ソフトへの入力を開始するのは当月下旬から翌月上旬ごろになります。	会計事務所のパート社員が2~3週間かけてパソコンに入力します。翌月中旬から下旬に出来る試算表は入金ベースの入力ですから正しい利益は把握できません。	毎月の試算表が出来るのは2ヶ月遅れで、納付期限ギリギリで税額を知らされます。これでは遅すぎて経営・節税には役に立ちません。				

今までの欠点

①請求書を入力しない今までの手抜きの試算表は、正しい試算表ではありません。  
一番大事なデータである請求書を入力せずに、入出金だけの省略した入力のためどんなに真面目な会計事務所でも正しい利益は把握してません。個別入力せず前月の売上と仕入の合計額で仮入力して請求書ベースに修正する簡便方式の損益計算書を作成し概算の利益が出て2ヶ月遅れで経営や節税には手遅れです。商品やサービスを納品してお客様に送る請求書が売上です。その請求書を入力しなければ正しい売上金額が出る訳がありませんし、その結果正しい利益が出るはずもありません。入出金はあくまでも決済のデータです。入出金を入力しても商品やサービスの納品とは無関係の資金繰り表しか作ることしかできません。資金繰り表は流動資金の流れを表現し、損益とは無関係です。それを損益計算書として使うので最終決算では思わぬ結果となり慌てて後の祭りとなります。請求書を入力せずに正しい損益計算書は作成出来ません。

②勘定科目は会計事務所のパート社員が推測で入力しています。これが試算表を理解できない原因です  
本来は会社自社の判断で勘定科目を決めるべきです。そうでなければ外部の人間が作った試算表の見方は永久に理解できません。外部が作成した試算表は勘定科目の内訳も分からないので役に立ちません。この欠点や矛盾を理解している会社は経営や節税に役立てるため会計事務所とは別に自社で独自に作成しています。

これを繰返すのは進歩がありません。時間がないので説明も充分されません。

本来会計事務所は無駄を省いて迅速な試算表作成の指導に専念し、試算表や決算書の見方を説明することに重点を置けば、経営分析が経営や節税に役立てられて会社発展に大きく貢献できるのです。

前月上旬	前月中旬	前月下旬	当月上旬	当月中旬	当月下旬	翌月上旬	翌月中旬	翌月下旬
前月1日に請求書を発行したら御社で直接入力します。	前月中に仕入先の請求書や今まで手書きしていた現金と預金出納帳を御社で入力します。指導を受け入力ミスがなくなればその場で請求書ベースの本来の正しい損益計算書が出来ます。これなら経営と節税に役に立ちます。毎月の取引先ごとの売上・仕入や売掛・買掛の残高も把握できます。	当月上旬に前月データを送信し指導を受け正しい試算表や決算書の分析結果を受信します。前月末決算の場合は当月中旬には申告も完了し通常の会計事務所の1ヶ月半早く申告が出来ます。	毎月の試算表や資金繰り表の見方を説明されるので決算までには事前に充分節税ができて決算の見通しは毎月立てて行くので安心です。	その都度、取引の直後に入力して行きますので翌月上旬にはデータの送受信で当月(前月が決算なら翌期)の試算表が分析・説明されます。	今まで説明がないため興味がなかった決算書の見方が分かるようになり経営の欠点が見えたり、自信が付ききます。			

自計化の長所

毎月経営分析して行くと今まで見えなかった経営状態がはっきり見えるようになり将来の経営方針が立てられるようになります。

資産	借金	悪い会社
マイナス資本	負債(借金)	
資産 流動資産 有形固定資産 無形財産	資本	良い会社

大企業が継続発展できるのは自計化の御蔭。経営方針が決まり会社発展に貢献します。自計化導入の数十万円が不要になります。経営状態の説明と経営アドバイスをします。

入力の指導にはインターネットの電子メールを使います。個人情報の保護にはパスワードを使い万全の対策を講じており、情報漏えいは絶対ありません。経営指導も毎月適切に行うため経営指導・節税指導に電子メールを使います。もちろん毎日お忙しい中で御社の業務に支障がない場合はお伺いして試算表をご説明します。このようにすれば迅速な試算表・決算書が作成され必ず経営や節税に役立てられます。取引先別の毎月の売上表および仕入表・前期および5期比較試算表・年間通じた毎月の業績推移表・グラフ分析・経営指標による経営分析・取引先の取引額の順位表であるABC分析などを使いますが、初めての方は感動されるでしょう。経営状態の把握に役に立つ試算表を毎月ご説明します。